

“かに籠漁 発祥の地” 魚津。
 県内一の水揚げ量を誇るベニズワイガニは、
 海の駅 蟹気楼でも自慢の一品。
 甘くて柔らか、とろける味噌も絶品です。



Uoooz!! 寺口ともゆき 県政報告 2026 Spring vol.5

富山県でもようやく桜の便りが聞かれる季節となり、県政においても心機一転、新たな年度がスタートしました。

今年度の県予算の大きなポイントは「人と経済の好循環」（中面「おしえてー寺口ギイン」参照）。人口減少の時代のなかでも「選ばれる富山」であり続けるために。人材確保や人材育成はもちろん、AIの活用を通じた省人化や働き方改革などを進め、一人ひとりが活躍できる地域をつくっていかねばなりません。

「魚津のこれからは、つくるう。」をスローガンに掲げてスタートした私の議員としての任期も、最終年度の4年目を迎えました。この3年間、皆様からいただいた温かい叱咤激励と、県議会議員として積み重ねた経験を活かして、総決算の一年となるよう必死に取り組んでまいります。

異動や進学、就職など新生活を迎える方も多いと思いますが、皆様が充実した日々を送り、幸多からんことをお祈りするとともに、引き続きのご支援をどうぞよろしく願っています。

OFFICIAL WEBSITE <https://teraguchi.jp/>



寺口ともゆきが地域のキーパーソンに聞く!

みんなのUoooz!! vol.5



田中 豊子(たなか・とよこ)さん

銀行勤務を経て、2児を育てながら家業の建設会社に従事。2020年10月、市からの支援を受けて「経田コミュニティカフェ潮風」をスタート。

地域でつながり、笑顔の輪を広げる 経田コミュニティカフェ潮風

運営する「経田コミュニティカフェ潮風」の活動内容は？
 魚津市内では初となる高齢者のための「通いの場」で、すべて住民ボランティアで運営しているのが特徴です。週に3回、午前中は体操、昼食後は手芸などのレクリエーション、ほかにも歌声喫茶やマッサージ、季節のイベントなど。60〜90代まで約60名が登録していて、毎回30名近くが参加しています。

活動していくうえでの苦労や工夫はありますか？
 ボランティアスタッフの確保には苦労していますね。また、利用者ごとに運動能力の差もあるので、速い体操やゆっくりした動きを混ぜながら、フレイル（健康と要支援の間状態）にならないように頑張っています。

一番のやりがいは？
 利用者さんやスタッフみんなが仲良くなって、笑顔が増えていくこと。少しずつ元気になっ



ていく姿が見られたり、「体力がついた!」とか「来るのが楽しみ」と言ってもらったり。みなさんの「ありがとう」が、私たちの一番の力になっています。

今後は、潮風をどんな場所にしていきたいですか？
 オープンから5年がたち、潮風が徐々に地域の「居場所」になってきたと感じています。これからもつながりを大切にしたい。笑顔の輪を広げていきたい。地域の人たちにも関心を持ってもらって、一緒に活動していく仲間が増えたら最高ですね!

日々の活動をお届け ともゆきがゆく!



2025/12/11 タワーパートナーズ セミコンダクター社

半導体製造現場を視察。世界的なものづくり企業が魚津市にあることが誇らしい!



2025/10/20 林道崩落現場確認

複数箇所で大規模な崩落が見られる林道別又僧ヶ岳線。復旧に向けた対策を!



2025/10/27-11/1 スリランカ視察

福祉環境部会で訪問。世界遺産内に建つホテル「ヘリタンス カンダラマ」は圧巻。



2025/11/02 富山マラソン

昨年のリベンジ! 雨が降る厳しいコンディションのなか制限時間ギリギリで完走。



2026/1/10 魚津市 消防出初式

一斉放水やパレードで今年の無事と無火災を祈念。支部長表彰もいただきました。



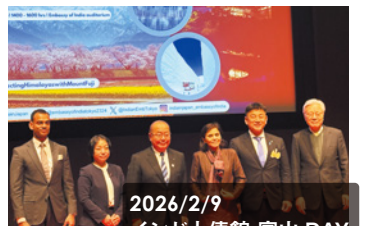
2026/1/13 高岡向陵高校 出前授業

政治や社会に興味を持ってもらうための主権者教育。同僚県議と熱く語りました!



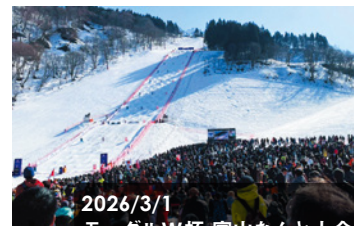
2026/1/17 魚津市航海安全大漁祈願祭

厳粛な雰囲気のもと、漁業者のみならず今年一年の航海の安全と大漁を祈願。



2026/2/9 インド大使館 富山 DAY

経済・文化をはじめ幅広い交流を目指して、成長著しいインドに富山をアピール!



2026/3/1 モーグルW杯 富山なんと大会

日本では6年ぶり、富山県では初となるW杯開催。スポーツ観戦で地元選手を応援。



2026/3/17 新川こども施設 整備安全祈願祭・竣工式

来年8月のオープンに向けて安全祈願。子どもたちに愛される施設になりますように。

魚津・新川の魅力や情報を発信!



Instagram : terra_0331



寺口 智之 たらぐちともゆき

1978年 富山県魚津市生まれ 富山県立魚津高等学校 明治学院大学経済学部 卒業 大学卒業後、写真スタジオ勤務を経てカメラマンとして活動。2011年の東日本大震災に魚津にリターン。魚津商工会議所に8年間勤務し、「魚津まつり」などのイベントや外郭団体事務を担当する。2020年に退所し、魚津市議会議員として活動。2023年、富山県議会議員に初当選。

SNSも日々更新中!



teraguchitomoyuki2020

terra_0331

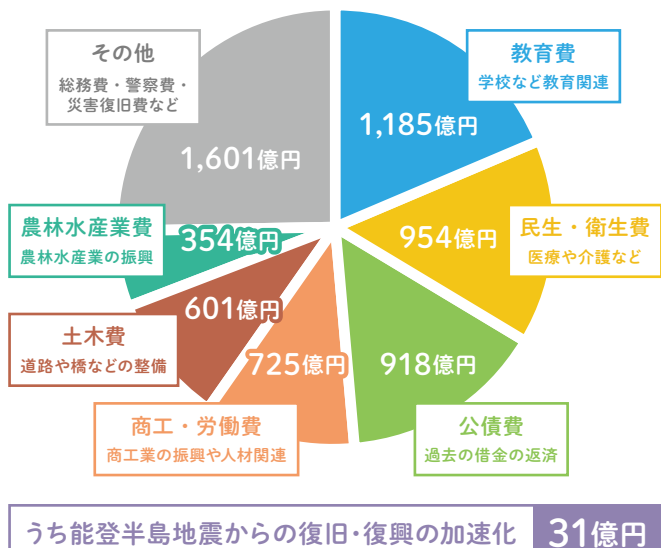
地域の課題をざっくり解説!

おしえて! 寺ロギン

第3回 富山県のお金の使いみち

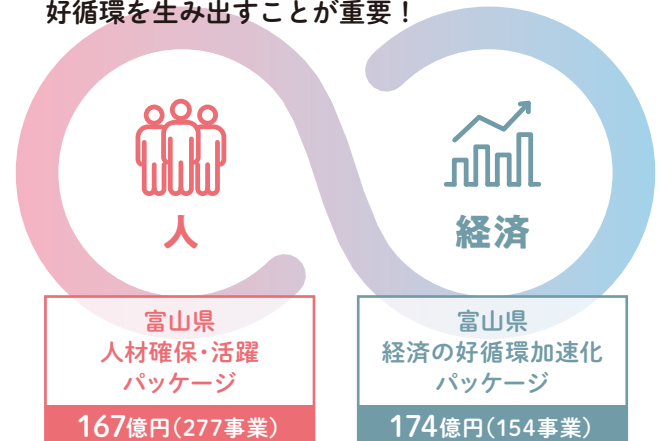
そもそも何にいくら使われるの?

2026年度の一般会計予算総額(歳出)は
過去最高の6,338億円!



ポイントは「人×経済」の両輪

強い経済なくして人は定着せず、人の活躍なくして経済は成長しない。この両輪を組み合わせ、好循環を生み出すことが重要!



予算審議は議員にとって重要な仕事。予算を承認した責任も感じながら、富山県がさらに前進していけるように、懸命に取り組んでいきます!

県道 魚津生地入善線の整備

予算を確保して
一日も早い開通を!

Q 15年計画で進められている「県道魚津生地入善線(湾岸道路)」の整備について、現在の整備状況と今後のスケジュールについて問う。また、補正予算が確保できれば工期の前倒しは可能か?

A 県では、令和2年度から同事業に取り組んでおり、これまでに取付道路や橋の詳細設計、必要となる用地の測量、地元や地権者に対する説明を終えている。整備状況については、魚津市側では、令和8年度から用地買収や物件補償を順次進めており、件数ベースの進捗状況は約8割となっている。ご質問いただいた国の補正予算は重要な観点であり、取付道路や橋梁工事への活用が考えられる。少しでも早く供用できるよう、今後、順次発注する工事への活用を検討していく。(金谷土木部長)

「通いの場」の継続支援

介護予防事業に
県はもっと積極的に関わるべき!

Q 介護予防の基盤である「通いの場」の維持と活性化について、市町村と連携してどのように取り組んでいくのか。

A 住民が主体となって取り組む「通いの場」には、介護予防のほかにも多様な効果が期待され、地域支援事業において、県もその費用の一部を負担している。加えて、ホームページ等での活動の周知や、担い手に対する研修、優良事例の普及にも取り組んでいる。こうした取り組みに加えて、令和8年度はアドバイザーを派遣し、引き続き「通いの場」の活性化に取り組んでいく。(有賀厚生部長)

福祉・介護分野の 人材不足対応

人材確保のために
あらゆる手段を講じてほしい

Q 福祉・介護分野でのスポットワークの活用について、どのような人材を想定し、仕組みの定着・普及に取り組むのか。また、有償ボランティアなど多様な働き方での対応も必要だと考えるが、あわせて問う。

A 介護職の資格を有する方の副業・兼業や、子育て・介護等によるフルタイム勤務が困難な資格者の再就業など、幅広い人材を想定している。短時間就労や有償ボランティアを含めて入り口を広げていくことは重要だと考えており、事業所への周知や事例の共有など普及・啓発を図り、裾野拡大と掘り起こしにつなげていく。(有賀厚生部長)

AI技術のさらなる活用

日々進化し続けるAIを
使って使って使い倒そう

Q 防災や観光、福祉や産業振興など、県政のさまざまな分野においてAI技術の活用が可能だと考えるが、現在の活用状況と今後の方針について問う。

A 現在は8割を超える課において、日常的に活用している。令和8年度からは「高機能生成AIシステム」の検証、特定業務の自動化を行う「AIエージェント」の開発にも着手しており、さらなる業務の効率化、資料の品質向上などが期待される。今後は、業務効率化にとどまらず、県民一人ひとりに応じたサービスの高度化につなげていきたい。(新田知事)

部活動の地域展開

教員・保護者・児童生徒
「三方よし」の部活動のあり方とは?

Q 部活動の地域展開については、教職員の負担軽減だけでなく、児童生徒や保護者にとっても良い方向に進むよう、市町村と一体となって取り組んでいく必要があると考えるが、どのように進めていくのか。

A 国の支援策を活用し、活動費等への助成に加え、児童生徒、保護者、教職員向けに啓発資料による周知を図るなど、主体的に取り組まれる市町村を支援していきたい。教育委員会としては、改定したガイドラインにより改めて方針を示し、県全体での部活動の地域展開を進めてまいりたい。(廣島教育長)

インドとの経済交流・ インバウンド

成長著しいインドは
極めて重要なパートナー

Q インドとの経済交流をさらに発展させるため、県として今後どのような関係構築を進めていくのか。また観光客誘致についても、さらに積極的に取り組んでいくべきだと考えるが、今後の戦略を問う。

A これまでも、インド大使館でのイベントや、アンドラプラデシュ州との覚書再締結など、戦略的互恵関係の構築に努めてきた。多様な言語や宗教、商習慣を持つインド市場へのアプローチには、きめ細やかな戦略が求められる。令和8年度は県職員を派遣し、経済交流を一層加速させてまいりたい。観光誘客の面でも、本県を訪れる旅行者が安心して快適に滞在できるように、情報発信の強化と同時に、受け入れ環境の整備が進むよう取り組んでいく。(新田知事)

令和8年2月定例会

議会質問 ダイジェスト

2026年の2月定例会で行った
議会質問12問の中から、
注目のトピックをダイジェストでお届け!

漁業者の経営支援

漁業者の負担金が増額!?
必要な支援を求める

Q 漁獲共済制度の掛け金補助や漁業経営セーフティネット構築事業の積立金について、県による支援も必要と考えるが、漁業者の経営安定化にどのように取り組んでいくのか。

A ご指摘のとおり、漁業者の負担が増える場合もあると認識している。また、燃油価格上昇等の懸念もある。国の「漁業経営セーフティネット構築事業」制度の活用をはじめ、漁業経営を取り巻く環境の変化を注視しつつ、安心して漁業活動を続けられるよう必要な支援を行っていく。(佐藤副知事)

小規模漁業の継承支援

「寿司といえば、富山」
漁業にも“多様性”を

Q 富山湾の魅力である多様な魚種を獲り続けるために、刺し網など小規模漁業者の継承支援が必要と考えるが、人材確保や継承に向けてどのように取り組むのか。

A 若い世代に興味を持ってもらうため、高校生に向けた水産業お仕事ガイダンスを行ったほか、令和8年度は出前講座も新たに開催する。県内外に向けては、SNSを活用した動画配信の支援を行うなど、富山湾の魚の付加価値と漁業の魅力の向上のため、より効果的な手法や施策を検討したい。(佐藤副知事)